



東京PCB廃棄物処理事業だより (No.11)

東京PCB廃棄物処理施設の運転状況について

東京PCB廃棄物処理施設は5月から7月末まで、定期点検期間における改善工事を実施していましたが、無事工事を完了し、8月から操業を再開いたしました。

7月～9月の間の受入処理実績と操業開始からの処理累計は下記のとおりです。

高濃度PCB廃棄物

	平成19年度（7月～9月）		平成19年9月末現在 累計処理台数
	受入台数	処理台数 ^{*1}	
トランス	0台	0台	129台 ^{*3}
コンデンサ ^{*2}	3台	92台	923台 ^{*3}
安定器等	674個	0個	9,864個

- * 1 高濃度PCB廃棄物については処理に着手した台数を処理台数としています。
- * 2 前期に受入をしたPCB廃棄物が残っていたため、コンデンサの処理台数は受入台数を上回っています。
- * 3 トランスとコンデンサについては、前号までの累計処理台数に誤りがございましたので修正を行い、今号の累計処理台数としております。

低濃度PCB廃棄物（柱上トランス絶縁油）

	平成19年度（7月～9月）		平成19年9月末現在 累計処理量
	受入量	処理量	
柱上トランス絶縁油	469kl	467kl	1,800kl

ダイオキシン国際会議東京PCB廃棄物処理施設の視察について

9月3日～7日にかけて東京都内のホテルでダイオキシン国際会議「DIOXIN2007」が開催されました。この国際会議はダイオキシンなどの環境汚染物質について、各国の専門家等が研究成果を発表し、情報交換する場として毎年開催されており、今回は日本が開催国となりました。

当社は国内のPCB処理の状況について分科会にて口頭発表を行ったほか、会場にもブースを設け当社の事業を紹介しました。

9月7日（金）には、会議参加者を対象に、当社東京事業所と大阪事業所を視察先とする、PCB廃棄物処理施設見学会が設けられました。

東京事業所には、台風の直後にもかかわらず65名もの参加があり、日本では30年以上も保管され続けてきたPCB廃棄物の化学処理施設についての関心の高さが感じられました。

見学は、パンフレットとDVDによるPCB処理状況の説明、見学者コースでの主な施設紹介などの内容で行われました。参加者からは、PCBの水熱酸化分解処理方法、施設の環境対策、PCBのモニタリングなど数多くの質問をいただきました。

これからもあらゆる機会を通じ、当社が安全にPCB処理を進めていることを紹介することで、PCB処理の緊急性及び必要性について情報発信してまいります。



展示ブース



視察者への処理施設の説明



施設見学会の様子

環境報告書2007の発行について

当社は9月に「環境報告書2007」を発行いたしました。
 この報告書は「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」に基づき作成していますが、環境保全に加え労働安全衛生、保安防災、地域等の取組みについても記載しています。
 「環境報告書2007」はHPにも掲載をしております。

<http://www.iesconet.co.jp/company/environment/index.html>



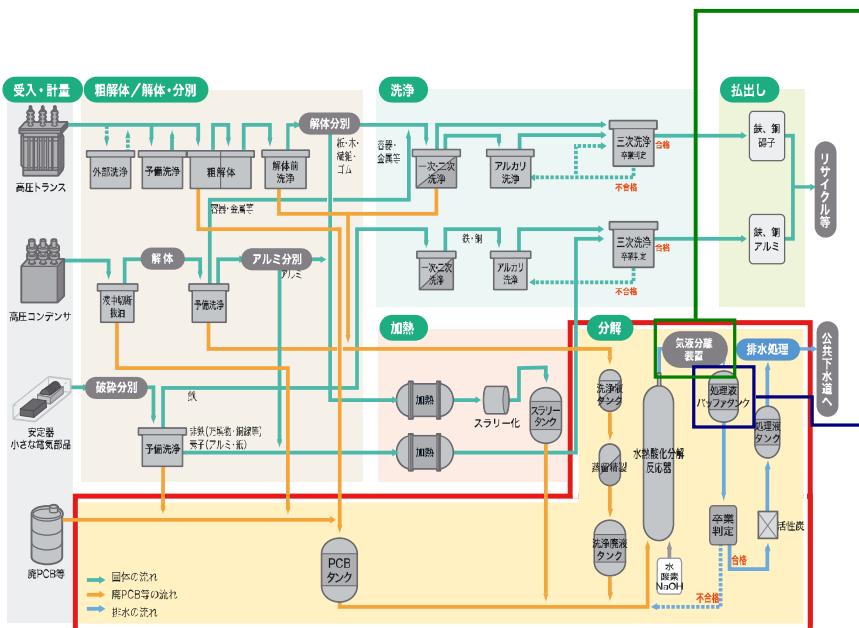
自主清掃活動について

東京PCB廃棄物処理施設では施設周辺の環境保全を目的として、10月10日に自主清掃活動を行いました。
 当日は約50名の職員が参加をいたしました。
 今後も定期的に自主清掃活動を行っていくとともに、様々な活動を通して、職員ひとりひとりが身近なことから地域の環境保全を考え、取り組んでいきたいと考えています。



東京PCB廃棄物処理施設の紹介⑤<分解処理設備-2>

水熱酸化分解反応器で分解された分解済液（水、食塩、二酸化炭素）は気液分離槽へ移送され、気液分離ガス（二酸化炭素）と気液分離水（食塩水）に分離され、その後、気液分離ガスは排気処理設備へ移送されます。
 一方、気液分離水は処理液バッファタンクに送られPCB濃度が卒業判定基準に合格していることを確認後、処理液タンクへ移送します。
 万一、卒業判定基準を超過し不合格の場合は再度水熱分解反応器で分解を行います。



気液分離槽



処理液バッファタンク